

政府・与党の方針に対して、質問を通して異議を申し立てたり、問題点を明らかにしたりする。国会を生き生きとした「言論の府」にすることは、野党の役割の一つだ。「安倍一強」に野党はどう挑んでいるのか。その力は十分か。

## 民進は「個人商店」

1日の衆院予算委員会。質問を終え、散会した後、民進党の辻元清美氏は安倍晋三首相を呼び止めて議論を続けた。

「ミサイルを配備されて腹立たなかったの。テールひっくり返すぐらいせなあかんわ」

「それを質問してもらって良かった。でも、私は辻元さんほど強くないから」

質問したのは、ロシアが日ロ首脳会談の直前に北方領土内へミサイルを配備したのに、プーチン大統領に経済協力を約束した首相の姿勢だった。

質問の準備を始めたのは1カ



民進党の辻元清美氏1日質問する

## 辻元氏「思想と事実糸紡ぐ」

月半前。衆院事務局や国会図書館の職員に手伝ってもらい、交渉過程の資料や国会議事録を集め、公設で1人だけ認められる政策秘書と読み込んだ。

長期安定政権の下で、政府の情報管理は厳しい。首脳会談の合意文書を求めても、役所は「相手方との関係で出せない」。そんななかで見えてきたのは、歴代の交渉責任者が重視した「択捉、国後、色丹、歯舞」の4島の名前が、安倍政権になってロシア側の声明から消えたことだった。

委員会では、この点を攻めた。会談の成果を強調していた首相も「外交だからいろいろある。『これが成果だ』と誇ったところで結果が出なければいけない」と答えざるを得なかった。

反省も残った。交渉経緯を示したパネルに、4年前の安倍・プーチン会談がない点を首相から「意図的」と指摘され、即座に理由を説明できなかった。この場面の動画はネットで拡散した。

首相の外交姿勢が改まるかわからないが、翌日、官邸主導の外交を懸念する閣僚の一人から声をかけられた。「4島の名前の話は知らなかった。もっと追及して欲しい」

民進の質問づくりは各議員事務所による「個人商店」方式の側面が強い。個々の力量の差が出る。「縦糸に思想、横糸に事実。その二つを紡いでいかないといけない」。辻元氏は自戒する。

(南彰)

# 野党問われる質問力

## ネタと気迫で権力悪暴露を

内部資料を入手して数十人がかりで分析し、質問をぶつけるのが共産党流だ。

「防衛省の文書には『万が一の事故の際には全基地撤去運動につながるかねない状況』と書いてある。大臣も同じ認識か」

2日の衆院予算委。党政策委員長長の笠井亮氏は、沖縄県で昨年未にあつたオスプレイ大破事故に関する資料を手に、飛行再開を認めた判断を稲田朋美防衛相に問うた。

稲田氏は防衛省が用意した答弁書を読み始め、予算委員長から「簡潔に願います」「あまり長いと止めますよ」と注意を受け、答弁を打ち切られるところまで追い込まれた。

## 共産は「人海戦術」

## 笠井氏「徹底調査ろそ見える」

手にした資料は、省内の会議で配布され、「取り扱い厳重注意」と記された内部文書。年明けに防衛省に求め、数週間後に一部黒塗りで届けられた。「経緯を時系列で洗い直すなかで文書にたどり着いた」という。

こうした内部文書は、党所属の秘書団や職員、赤旗記者、同僚議員と分析。全衆院議員が集まる代議士会も質問に向けた「知恵出し」の場で、1問に対して数十人が議論に加わる。

先の臨時国会でも、小池晃書記局長がこの手法で、稲田氏や菅義偉官房長官ら自民党議員が政治資金パーティーに出た際に白紙領収書を受け取ることが慣例化していた実態を暴露した。

早野透・元朝日新聞コラムニストの話。経験を重ね挫折に鍛えられた安倍首相が、それなりの理屈で野党を封じ込めているというのが国会の印象だ。

かつて田中金脈事件で政権を追い詰めた榑崎弥之助氏は、緻密な論理とデータで疑惑をうやむやにさせなかった。中曽根政権と対抗した土井たか子氏は、政権の思うようにはさせないと、気迫で売上税を断念させる成果を上げた。いずれも政権を動かす風格があった。

橋本龍太郎氏以降の10人の首相と対決した笠井氏は「相手の問題意識や対応を徹底的に調べろ。そのなかからうそやごまかしが見えてくる」と語る。

それでも骨太の政権構想を描く志を持ち、政権と別の選択肢を示すことで国民の注目を引きつける質問力を磨かなければいけない。何より権力悪を暴露するネタと気迫が欠かせない。



共産党の笠井亮氏2日、いづれも岩下毅撮影

(関根慎一)